

## 令和4年度第2回徳島県南部地域政策総合会議 会議録

### 1 開催日時

令和5年3月7日（火）午後3時15分から午後5時まで

### 2 会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 大会議室

※WEB会議システム併用

### 3 出席者

#### (1) 政策総合会議委員

##### ① 地域住民代表委員 16名（3名欠席）

青木委員 石本委員 大地委員(WEB) 尾崎委員 兼松委員 岸委員 小林委員(WEB)  
酒井委員 谷澤委員 轟委員(WEB) 長尾委員(WEB) 橋本委員 林委員 平井委員  
町田委員 遊亀委員

##### ② 県委員 1名

坂東南部総合県民局長

#### (2) 管内市町長、副町長 4名

表原阿南市長 坂口那賀町長(WEB) 枅富牟岐町長(WEB) 磯野美波町副町長

### 4 会議次第

#### (1) 開会

#### (2) 議事

徳島県南部圏域振興計画見直し(素案)について

#### (3) 意見交換

#### (4) 閉会

### 5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・ 令和4年度第2回徳島県南部地域政策総合会議配席図
- ・ 資料1 徳島県南部圏域振興計画の見直しについて
- ・ 資料2 徳島県南部圏域振興計画見直し(素案)の概要
- ・ 資料3 徳島県南部圏域振興計画見直し(素案)

### 6 議事概要

[司会]

ただ今から、令和4年度第2回徳島県南部地域政策総合会議を開会いたします。

本日は、20名の地域住民代表委員の皆様及び管内市町の市長、町長様に御出席いただいております。今後の議事進行は、会議設置要綱第5条第2項の規定により、坂東南部総合県民局長が行います。

[局長]

南部総合県民局長の坂東でございます。

本日は、委員の皆様方におかれましては、お忙しいところ、御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。さて、南部総合県民局におきましては県民局が設置された平成17年度末に徳島県南部圏域振興計画を策定しまして、委員の皆様から頂きました御意見を踏まえ、地域の皆様と共に、持続可能な地域づくりを目指し、様々な取組を推進して参りました。

現在、この「徳島県南部圏域振興計画」について、めまぐるしく変化する時代の潮流に対応すべく、見直しを行っており、本日は、そのたたき台となる素案について、御説明をさせていただきたいと考えております。その後、委員の皆様から「素案」に対する御意見や、これからどうしていけばいいのかというアイデアについて、御意見を頂きたいと考えております。

それでは、本日の議事である「徳島県南部圏域振興計画見直し（素案）」について、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

(資料1、2により説明)

[局長]

ありがとうございました。ではここからは、事務局から説明がありました、この計画素案につきまして、委員の皆様方から御意見や御質問、その他圏域の振興全般に関わる御意見御提言を頂きたいと思っております。まず、会場の皆様からお伺いをしまして、その後、WEBで御参加の皆様方に御意見を頂ければと考えております。全員に御発言いただきたいので、お一人あたり2分程度でお願いいたします。

ではA委員から順番にお聞きして参りたいと思っております。よろしく申し上げます。

[A委員]

はい、Aでございます。よろしく申し上げます。では、発言させていただきます。私は3点、南部圏域の振興のための意見をお話させていただきます。

まず1点目でございます。素案概要の1、安全安心な暮らしを実現する地域づくりについてです。私は、防災士でございますので、まもなく12年を迎える東日本大震災、今週も色々な報道があつて、県民意識、国民意識は高いレベルだと思っております。やはりですね、南海トラフ地震に備えた県南部圏域における県立施設等の避難所におけるハード面、この取組を是非とも進めていただきたいと考えております。最近、地球温暖化で、暑さが凄いです。私も西日本豪雨の際に、被災者支援に行きましたけれども、やはり体育館のクーラーであつたり、そういった設備、ハード面があつてこそソフト面だと感じました。昔はソフトもハードも両方やろうという気持ちがあつたんですが、やはり必要なものは必要です。これは予算の関係もあるんですが、体育館等には、冷房設備等の設置をよろしくお願ひしたいと思っております。また、進めていただいているのは知ってますので、お分かりであれば、その現状、今どこまでどのように、県立施設、避難所において、冷房施設の整備が進んでいるかというのを教えていただければと思っております。

2点目は、今日もバッジをつけておりますが、やはり2025大阪関西万博です。関西広域連合の一員として、徳島県は進めるべきだと思っております。この四国の右下の観光誘致、プロモーション

は、2番目の方にも書いていただいております。今回、万博は、ゲートウェイで、徳島はまるごとパビリオンというのを進めていただいております。是非、県南部圏における観光面で、まるごとだという意識と意義を県南部圏域の皆さんにもしっかりとPRをして、開催に向けて県南独自の機運醸成を図って盛り上げていただきたい。その観点は、県だけの施策じゃなくて、民間とのコラボレーション、今日、Eさんがいるから、花火を上げたっていいんです。そういった色々と柔軟なやり方を行っていくべきだろうと考えておりますので、現在の取組、今後の県南部圏域での計画予定を教えていただければと思います。

3点目は、次世代公共交通についてでございます。これは日常生活に必要な不可欠です。私もDMVをしっかりとやっていこうと、世界初だとPRさせていただいております。しかし、それ以前に阿南市もそうなんですけれども、中山間地域において、ネットワークづくりを進めて欲しい。阿南市は今日、市長もおられるんですけれども、加茂谷や那賀川の方で進めていただいております。県南部圏域で、身近な日常生活の交通のあり方について、JR、バスの公共交通、二次交通を考えて欲しいと思っております。発言は以上でございます。ありがとうございました。

#### [B委員]

資料3の11ページにおきまして、フェーズフリー政策の推進とあります。これは、素晴らしいと思いますが、若者は分かるかもしれませんが、高齢化率が高いのでやはり、住民に分かる語句、内容じゃないとなかなか浸透しないと思います。それも、私達は、婦人会を通じて、各学習会の時に、色々と進めております。

それと、資料3の13ページにおきまして、観光地域づくりについてです。コロナで修学旅行生が減りましたが、コロナ禍でも、毎年5、6校受けてきました。コロナ禍だということをしっかり認識して対応すれば、大丈夫でした。一人も感染者を出すことなく良かったと思います。旅行者の受入体制の整備についてですが、受入れ側の人づくりが大切になってくると思います。インストラクターが高齢化していますので、若者も取り込まないと、持続可能にはならないかなと思っております。

次に、資料3の19ページです。昨年12月にJR牟岐線の阿南・阿波海南間の存続を求める要望書14,719通をJR四国の方に届けてきました。やはり持続可能な公共交通ネットワークの構築が一番大切だと思うんです。そうしないと医療を守る方としましても、海部病院の先生方は2時間かけてきて、乗り換えていけますよっておっしゃるんですけど、直通で行けるようになれば、便利かなと思いますが、あまり欲張ると存続が不可能になりますので、また、御尽力をお願いします。

それと、医療の提供が重要です。資料3の20ページにも出産子育ての切れ目のない支援とありますが、南海トラフ地震がいつ起こる分からないところにきてます。そこで、移住したいとなれば、移住希望者は、医療がしっかりしているのが一番だと思いますので、取組を進めて欲しいと思います。

#### [C委員]

失礼いたします。Cでございます。私の方からは度々お願いしております、県の主要政策である道路の問題でございます。防災活動をするにも、やはり道路が一番ではないかと思っております。ちょっとした雨が降る度に道路が冠水して、生活道路が使えなくなるのでは困るので、是非そこを一番に考えて、防災政策に取り組んでいただきたいと思っております。私が住んでおります下大野町畑田地区は87軒住居があるんですが、雨が降る度に道路が冠水して動きがとれなくなります。是非、防災の面でよろしくお願ひしたいと思っております。これまでも県の方から回答いただくんですが、過去何年も同じような回答で、進んでないと私は感じておりますので、是非、知事さんによろしくお願ひしたいと思っております。

おります。

もう一つは、大野地区では、朝晩に道路が、ほとんど住民が動きがとれないぐらい渋滞して困ってしまう状況があります。抜け道はないんです。高速道路ができれば、変わるんじゃないかなと思っておりますが、その辺のですね、車の動きについて、県で把握していただいて、住民にお話いただけたら幸いだと思えます。

それと、人口減少っていう報道が度々されるんですが、やはり、徳島っていう地域そのものが、全国的にマイナーな部分があって知られてないんだろうと思えます。そういう意味で、2013年に日本女性会議を阿南で開催した時には、是非、全国に発信できるようにと思って、動いたんですが、それも一発花火で終わってしまった。来ていただいた方々は阿南ってすごいですね、色々な美味しいものもあるし、見るところもあるしって、喜んで帰っていただいたと思うんですが、それが継続しないっていうことが一番寂しいことです。ですので、是非、大きな大会を誘致するっていうことも必要なんじゃないかなと思えます。先日、2月22日の新聞に観光の認知不足、宿泊者低迷という記事が載っていました。確かに、私が仙台に住んでいた時は、はっきり言って徳島なんて知りませんでした。色々な所に観光に出かけても、徳島だけ行こうってならなかったんです。それで、夫が結婚した時に、お前は色々なところに行ってたけど、徳島を避けていたから徳島に住むようになったなんて、そんなこと言われたこともあったんです。それぐらい、徳島の認知度が低い。そういう面では是非、東北の方にも飛行機を飛ばしていただきたいと思えます。やはり飛行機が一番必要だろうと思えます。観光ガイドっていうものも必要なんだろうけれども、是非そういう飛行機の交通の便も考えていただけたら幸いかと思えます。以上でございます。

#### [D委員]

Dと申します。よろしくお願ひいたします。商工会議所内に各業種によりまして、部会というのがございます。建設部会、商業部会、金融部会、あと、インフラ委員会、若者定住促進委員会と委員会もござります。今回こういった機会があるということで、サービス業部会と観光振興委員会が県の方への意見ということで、私の方がお預かりをしております。資料2の中のブルーの部分と少し相反するところがあるかも分かりませんが、御勘弁してお聞きいただきたいと思えます。

観光産業育成を県の重点政策とする徳島県では、様々な産業の育成政策がありますが、観光産業への政策が少ないと感じられます。観光産業は裾野が広く、観光産業を育成、発展させることは徳島県経済全体に好影響を与えることができます。

1つ目は、県南1市4町に観光行政に精通した職員を増やす。県職員と各市町村職員には、まだまだ観光行政に詳しい職員が不足しております。観光産業で起業や事業拡大を行うことがスムーズにできるよう、また、県が観光行政を行うときにスムーズに市町村と連携できるよう、観光行政に詳しい職員の育成をお願いいたします。

2番目は、観光産業に係る起業・事業拡大・事業承継のサポートとして、観光産業を発展させるために、起業や事業拡大をしようとする企業団体へのインセンティブの充実と伴走型のサポートを行う。

3番目は、観光情報発信の強化として、県南の観光資源は色々ございますが、情報発信力は弱く、まとまりがありません。国内外への県南の魅力発信強化を希望いたします。

4番、四国全体での観光連携とブランディングの強化として、四国山脈、阿讃山脈を背にし、個性的、良い意味でまとまりのない観光資源を持つ四県を四国ブランドとして作り上げていくことが必要かと考えます。四季に応じて、四県で個性ある周遊型観光が楽しめるよう、工程、日程調整も切れ目なく配慮していただきたいと思えます。以上でございます。

[E 委員]

皆さんこんにちは。私からは2点お聞きしたいことがございます。

まず一つは、関西万博についてでございます。先ほどのお話しにもありましたが、今、2023年というところで、具体的にどれだけの人をこちらに連れてきて、どの場所で何を披露するのか、具体的にそのモニターという形で実施をしていくような流れがあってもいいんではないかなと思います。もしくはこちらから行くのか。そこを仕上げるには時間が差し迫っているのではないかなと感じます。すごく、大きなチャンスであると思いますので、具体的に何をするのかというところを詰めていけばいいんじゃないかということがあります。

もう一点がですね、私、阿南市で、未来会議という形で、高校生と関わることでありまして、高校生から、あなた方は知っていただくための企業努力をされてますかと言われてまして、グサッときました。中小企業はほとんど知られていないという現状を知りました。その後、積極的に、学校からお呼びいただいた場合は、キャリア教育などで話をさせていただいたりしております。その際に、高校生がすごく仕事に対してネガティブなイメージを持ってるなというのを非常に感じました。その理由としましては、おそらく先生が中小企業を知らない、どういうふうに、誰をつてにキャリア教育お願いしていいのかわからないというところで、そこがボトルネックになってるような感じがいたしました。先日、椿中学校、新野中学校、福井中学校と、立て続けに講演に呼んでいただいたんですけど、そういうふうな形でわからないから、この人であればとぐるぐる回っているのがもったいないなと思います。中小企業の経営者は、素敵な方、真面目にされてる方が多くてですね、すごく魅力ある方が沢山いるので、ネガティブなイメージを少しでもポジティブに、また、地域に残って仕事がしたい、私の夢はこれだと思えるように、中学校、小学校からのキャリア教育につなげられるシステム、先生とコミュニケーションをとってやっていける形ができれば、素敵なのではないかなと思います。以上です。

[F 委員]

Fでございます。東日本大震災からこの11日で12年となります。徳島県も教訓を得て、被災者のゼロ作戦、ハード・ソフトの対策、私達もある程度、勉強したと思います。避難困難者についても色々課題がありましたが、避難困難者の一人一人と話し合っております。この間の訓練には話し合った結果、私も参加させてもらいますという人が結構多かったです。その時に、車椅子やリアカーなどで、避難する際に、老朽化した建物やブロックが倒壊し、避難路が使えない時があります。助かる命が助からない場合もあります。空き家対策を、南部それに私達の町も急ピッチで進めています。県も後押しをお願いしたいと思います。大変なことですが、これを解決しなければゼロ作戦は成り立たないのではないのでしょうか。今、私達が大事にしてるのは、人と人との絆であります。阿南の福井町と今でも個人的に交流を持っています。皆さん、次の南海トラフ大地震には十分に備えてください。以上です。

[G 委員]

Gです。よろしくお願いたします。私の出身は福岡県で、移住したい場所ランキングでは、福岡県はいつも上位に入っています。とても人気の福岡県です。しかし、私は徳島県の方が暮らしやすいですし、来て4年程で、徳島が好きで、楽しく過ごしてます。コロナ禍をきっかけとして、田舎に移住したい人が増えているというのが一般的になっていると思いますが、私が来たのはコロナ前でして、

リモートワークで起業した移住者の先駆けであると思います。そういう立場から最近気付いたんですけども、田舎に引っ込んだまま、会社をやり続けると非常にやりづらい。売り上げが下がりそう、売り上げを上げにくいっていう、課題に突き当たっています。というのも、私達のクライアントは、福岡とか東京、大阪という都会の方です。クライアントを持ったまま田舎に移住することで利幅を出していくことを最初狙ってたんですけども、自分達の持っている情報が古すぎて、東京、大阪の方を相手に仕事をしようとする、先制ができないといいますが、私達の方が後手後手になるといいますが、やりづらいことが最近増え始めています。那賀町に住んだまま会社を続けるのは厳しいのではないかとこの話し合いを、夫婦二人の会社なんですけど、してます。でも、那賀町に住み続けたいので、東京出張の回数を増やして、おそらく年間100万ぐらい、今、旅費交通費をかけながら、仕事をしています。これが、もっと増えるだろうということも覚悟しながら、田舎に移住して起業できるんだな、子育てもできるんだな、と思われたいという一心で、これからもやっていこうと思ってます。そういう会社が恐らく、世の中にこれから出てくるのではないかな、今、私達が突き当たっているということは同じような会社さんがいらっしゃると思うので、そこに対する補助金といったらそのままなんですけど、補助金であったり、活性化を促すような仕組みであったりが徳島県にあれば、横並びのこの田舎だろうといわれる県の中でも差別化ができるのではないかなと思います。以上です。

#### [H委員]

Hでございます。よろしくお願ひいたします。今、生物多様性国家戦略の見直しが進められていまして、徳島県でも生物多様性とくしま戦略も直していかなきやならないというところがございまして、これから作業を進めていくんですけども、やはり林業の皆伐、それと生物多様性の保全をどのようにお考えか、その点をお伺ひしたい。一番最初にその説明をしてくださった安全安心から始まって、コミュニティ維持のところまで、私は、ずっと経済性だけを追求するのではなくて、山の中に自然を見ながら、今まで40年間やってきました。生物の世界でも、繁栄するときは多種多様性を持ち、そして生命力が沈滞してくると単調になるようなことも聞き、地上でも地下でも色々な協力体制ができてるっていう話も聞きます。私どもは視察を受け入れており、色々な業種の方がお見えになって、色々な視線で、山を見てくださっています。最近、川の中に10トンダンプとユンボが往来しているのを見ます。私はどうしても不思議でなりません。洪水を防ぐためには、それも必要なんですけれども、なぜそうなったかということ、やはり根本の課題を解決しなかったら、いつまでたっても一緒のことではないかなと思います。次に、山に行く日のイベントをしました。山を歩いて、音楽を聴いて、色々なお話を聞いたりということをやりました。皆さんすごく気持ちがいいという感想でした。視察に来られてる方の感想は、気持ちがいい、ほっとする、安心であるということをよく聞きます。山の手入れを続けることが違った方向から山の可能性を引き出せるのではないかなと思います。また、それが、コミュニティの維持、移住、定住、文化・技術の継承にもつながると思っております。皆伐だけではなく、違う方向からも攻めないとちょっと難しい時期に来ているように私は感じています。

最後に、林業の担い手の若い人が辞めるということをよく聞きますので、危機感を持って考える必要があると思います。以上です。よろしくお願ひいたします。

#### [I委員]

Iでございます。少しまとまってないんですけども、先ほど、伝統文化ととおっしゃってくださって、ほっとしているところです。昨年からは音楽の日というイベントを立ち上げました。継続して行っていく予定です。全国から、北海道から九州までお客さんが来てくださって、音楽とか、芸術的なイ

ベントとかいうのも世界的には日常に行われますけれども、これも観光のヒントになるのではないのかなと考えますので、どこか観光を色々と考えてくださっている方に、少し音楽とか芸術とかっていうのもヒントにしていくとか、気に留めて頂けたらいいかなと思いました。

もう一つ、伝統芸能ですけれども、徳島は人形浄瑠璃が講演しておりますが、なかなか浸透していかない。阿南市夢ホールでも、ずっと阿南の人形浄瑠璃座が公演しておりますが、演目がとても分かりにくい。漢字も分かりにくいです。漢字だけですむのに、変なところにひらがなが入っているタイトルもあります。それを行政の方達が馴染んでいないようです。そこに太夫さん、三味線さんのお名前も難しくてというところが大変なんですけれども。例えば、年に1回でもいいですので、浄瑠璃の舞台を観てみてください。以前に、新入職員さんは見る機会がありますよっておっしゃってくださったんですけど、年を重ねてからでも、年に1回でも見て、太夫さんの名前はこんな人がいらっしゃるよとか、義太夫にこんな名前があるのだからというのを見ていただけたら、興味を持っていただけるのかなと思います。

あと一つ、去年から始めた事業で小中高生のためのインリーチ事業というのがあります。アウトリーチという言葉は聞かれたことがあるかと思うんですけれども、アウトリーチは、出前授業として学校やその他ホールの外で、音楽や表現をしていく事業です。インリーチは、小中高生達を学校学年単位でホールにお招きして舞台を鑑賞していただく。これまで私達は、小学生を対象にすることが多かったんですけども、先日2月末に、阿南光高校の1年生が来てくれました。ロビーで、ここへ来るの初めて、という声が聞こえてきて、お招きすることに意義があったなと思っています。なぜお呼びするかというと、子供達が無料でホールにやって来る事業がいくつもあるんですけども、大人の方に連れて行っていただくということが必要になってくる。これではなく、子供達だけに来てもらう機会を作りました。そうすることで、せっかく公共ホール、公共施設があるので、その思い出を持っていて、県外に出ていった時に、故郷の思い出を持って行っていただきたいなということがあります。先日、新聞で拝見したんですけども、新しく徳島にできるホールは、高校生達、若い人達に使ってもらいたいということだと思いますけど、いきなり使えるよっていてもなかなか大変だと思います。子供の時から、ホールに足を運べる機会を作っていこうとしています。バスを出していますので、助成金頼みなんですけれど、なんとか全県的に、高校生達、子供達がホールに来ることができればいいなと願っています。ずっと以前に外国にルーツを持つ子供達の学校に対する日本語の学習支援の事業で、ボランティアで行ったことがあるんですけど、今では県の事業になってるかと思います。子供達がホールへ来ることができるインリーチ事業についても県の事業になればいいなと考えております。以上です。

#### [J 委員]

Jでございます。毎年、年2回ほど、この会議で、委員の皆さん、知事さんとお会いできるのが1番の楽しみでございます。ありがとうございます。私の集落は、本当田舎なんですね、今7名ほどしかおらんのです。あと5年、10年すると、もうほとんど人がいなくなると思います。私自身もこの12日で74才になりますけれども、10年もすれば、運転ができなくなる。那賀町木沢支所まで約10キロあります。交通手段はゼロです。どないして病院へ行こうかな、どないして買い物に行こうかなとか、そればかり考えるようになって参りました。本当に人がおらんようになります。それが1番心配で心配でなりません。坂口町長が今聴いていただいておりますけれども、町の方も何卒力を入れて、やっていただきたいと思います。以上です。

[K委員]

Kです。よろしくお願いします。最初に、防災に関してです。那賀川の加茂谷橋の下で、今、砂利をとっていただいております。事前防災に非常に力を入れていただきまして、ありがとうございます。半年ぐらい前には木の伐採だったり、数年前に深瀬の堤防ができ、また加茂の堤防、新しくできたら、旧の吉井のあたりの昔からある堤防が切れるのではないかなというような発言をさせていただいたら、そちらの方も補強していただいて、本当に事前防災に力を入れていただいていることに感謝をしております。そうしましたら、住民の方が自ら防災訓練をしたいという意識が非常に高まって参りました。これだけしていただければ、自分達でも何かやらなければということなのですが、数年前に国交省の方に来ていただいて、コロナ禍だったので、消防団と地元の役員だけが携帯電話を使って逃げ遅れのゼロのセミナーを受けました。また、半年ぐらい前には、商工会女性部でも実際に国交省の那賀川河川事務所に行って、研修を受けさせていただいたんです。私は、那賀川フォーラムのいう会とかに所属してまして、すぐにそういう申し込みができるんですが、例えば、グランドゴルフをしているグループの人とか、幼稚園の帰りのお母さん方、数人でも気軽に何かそういう出前講座とか、出前授業みたいなものが、どこに連絡したらいいのかなってというような声があります。ラジオなどでこの番号に電話していただくと、気軽にこう出前授業を受けることができるような、PRも一つの手ではないのかなと思いました。事前防災には力をいただいてありがとうございます。

続いて、SDGsのことなのですが、この言葉は最初は何だろうかと思いましたが、今は、耳慣れてきて、皆が知っているようなことになっています。地球の温暖化防止に関してです。コロナの時に、何もできなかったもので、商工会女性部で、希望のあった阿南市の小学校、中学校、高校、企業にゴーヤの栽培セットをお配りして、緑のカーテンプロジェクトというのを行いました。初回の際は、小学校、中学校、高校と商工会女性部のメンバーだけだったんですが、去年は企業にも声をかけ、50社が賛同してくれました。コンテストなので、優秀賞とかいう形で賞が3つあるんです。景品には、来年も参加したくなるような素敵なジョーロをお配りをして、小学生はそのジョーロが欲しいので参加してくれたりするんです。でも、景品には限りがあるので、県知事賞とか、阿南市長賞とか、他にもそういう賞があれば、参加者が増えるのではないかと思いますので、そういう協力を協議できる県の方の窓口を教えてくださいたいと思います。

続いて、県南の観光に関してです。この日曜日に四国の右下観光局の方と、商工会の観光委員会とが協力して、ガストロミーウォーキングとあって、阿南を歩きながら、美食を楽しむ行事が日曜日に行われました。135名の方が、北海道とか、全国から来ていただいて、すごく盛大に開催されました。次も来たいってような多くの声がありました。四国の右下観光局というのが、すごく光り輝いてこられたきっかけだと思いますので、県南に来たいなっていう人は、四国の右下に聞けば、もうすべて上手くいくよっていうようになればいいと思います。観光客と事業者、お店とが連携できればいいなとその時に思いましたので、引き続きよろしくお願いします。

続いて、四国遍路世界遺産の取組についてです。半年ぐらい前に阿南市役所の駐車場に秋田県のなまはげの太鼓の方が来られて、それはユネスコの無形文化遺産に認定されているということなんです。それで、色々な団体が四国遍路道を世界遺産にと努力をしているのに、なかなかそれが伝わらない。ですので、この太鼓の方に直接、どうしてなまはげはそのユネスコの無形文化遺産に指定されたんですかって質問したら、ハート、思い、心よってという答えが返ってきたんです。すぐに、徳島県の未来創造文化部の方にお越しいただいて、四国遍路道が世界遺産になるのに、住民はどんなふうにしたらいいですかっていうことで勉強させていただいたら、積み重ねということを教えてくださいました。色々な団体のお接待などの積み重ねということだったので、そういうこともしっかりPRしていった



らいいなと思いました。

次に、この土日に徳島映画祭があるということで、私の近くでは、移住者が多くて、25分間の映画を地元で撮っていただきました。女優の佐久間由衣さんが主人公で来て、すごくいいのができたということで、見にいきたいなと思っております。この映画がすごくいいということなので、移住のPRに、徳島県全体で使えたりしたらいいなと思いました。阿波銀ホールまでなかなか見に行けないので、それが終われば、誰でも見えるようなケーブルテレビなどに流していただけたらと思います。

最後に道のことです。高速道路ができて、那賀町に行く道ですね、すごくきれいなバイパスを造っていただいているので、那賀町に行くのはその道が一番近いかと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。以上です。

#### [L委員]

よろしく願いいたします。私からは個別のプランに対してというより、普段、地域活性化に関わっている若者としての目指すべき県南の将来像と、こんなことが実現できればいいなと感じていることとお話していければと思います。

県南全体としては、この県南に関わる人の一人でも多くが新しいチャレンジを行うという状況を作っていきたいなと思ってます。今回の振興計画の中にも2060年に南部圏域において6万5千人から7万人超の人口の確保という表現があったように、人口自体が減っていくのは止めることはできない。これはもう間違いないかなと思ってます。その前提において私達ができること、この地域を少しでも活力を保って、持続可能な地域にしていくためには、私としては地域住民や関わってくれる人それぞれが複数の役割を持つ。それは、もしかしたら都会と田舎かもしれないですし、複数の職業をこなすことかもしれないんですけども、そういう複数の役割を持つ。そして、新たなチャレンジや様々な違う種類のチャレンジを行うという環境を作っていくことが大切かなと思っています。実現のため、チャレンジを行う人を増やすような仕組みづくりをどんどんやっていく必要があるのかなと思っています。例えば、民間企業が副業や兼業をもっと推進できるような仕組みを作るだとか、複数地域で活動する人を支援することであったり、自治体と連携した新しい活動をしたくなった時に、その部分を支援するとか、新しいチャレンジを行う人をどんどん支援することをやっていくというのが一つの思いです。

もう一つが、是非とも持続可能な地域づくりのための新しい指標みたいなものが県南であればいいかなと感じています。どうしても、この地域の振興ってところになってくると、移住者何名増えました、雇用が何名増えましたと、その数字で追う。それ自体はすごく正しいと思うんですが、ただ移住者の中には、入ってきて、色々な新しい取組をしてくれる方もいます。雇用を生むだけじゃなくて、次この地域で新しいチャレンジをやってみようよって動いてくれる人はやっぱりいるんですよね。そういう人達の活動がもっと定量的に見えるようになれば、移住者が何名増えただけの議論じゃなくて、私達は、この自分達で持ってる指標に向かってやってる、だからこれだけ地域は盛り上がってるんだぞって自信を持てるようになると思うので、県南としてここに力を入れて取り組んでます、こういった持続可能な街をつくるためにやってるんだっていう、そんな指標を作ればすごい素敵だなと感じております。以上です。

#### [局長]

ありがとうございました。それでは、WEBで御参加の皆さん、お願いいたします。

[M委員]

はい、Mでございます。よろしく願いいたします。新型コロナウイルスも、第5類へと移行する目処が立ち、コロナ規制もどんどん解除へ向かい、13日にはマスクの着用も個人の判断となるようです。やっとという想いでもありますが、コロナのおかげでデジタル技術の普及が目覚ましく、勢いを止めずに利用促進をしてほしいと思います。特に、資料3の16ページ、プラン9ですね。スマート農林水産業DXの推進で、漁業に関しては、リアルタイム水質情報配信システムの整備があります。漁師さんからも活用している話をよく聞きます。とても素晴らしいシステムだと思っております。これを基盤に、新しく県南の組合間や組合から漁師さんへ向けての情報授受ができるようなシステムができたらと思っておりますので、また御支援の方よろしく願いいたします。以上です。

[N委員]

こんにちは、Nです。徳島県の移住推進の窓口として、全国から移住者を引っ張って来ようとしている仕事をやらせていただいています。ですので、最新のお話をしたいと思います。コロナがやっと収まってきまして、対面のフェア、生で移住者の方にお目にかかるということがこの一年できて、非常に変わってきています。やはりリモートワーク、2拠点に移住者の方の頭の中で当たり前になってきてるんですね。それで意外なんですけども、40代後半、50代前半の御家族持ち、中学校、高校の子供さんがいる方で、資格を持ち、仕事も持っている、生活基盤となるお金も持っている御夫婦がフェアに御相談に見えるんですね。その時に、絶対に対面でお話して、それは来ていただいても大丈夫ですよっていうことを徳島県内各市町で、特に南部はしっかりやれてると思っております。そういった方々が、お望みなのは、中間都市です。中間都市っていうのは、南部でいうと阿南です。中間都市の基準として、分かりやすいのが、ユニクロ、ニトリ、マック、大型スーパーです。そこから車でどれくらい離れてるっていうことをお話するとはっきりイメージできるらしいんですね。もうポツンと一軒家はそろそろ収束しています。それから学校のこと、病院のことがしっかりしているところをお望みです。

プラン13のひとつとしごとの好循環によるまちづくりのところにぜひ住まいという文言を入れていただきたいんです。実は、先進地区として移住施策を行っているところが、住まいがなくなってきているんですよ。もう掘り起しをやり尽くしている。移住者の方来られても仕事を持っていても住まいがないとどうにもなりませんっていうことをよく把握しといていただきたいと思っております。

それから、最後ですけども、今いらっしゃってる各市町の方、県の方にもお願いしたいんですけども、対面の移住フェアにどんどん出れるように予算をつけていただきたいと思っております。生の声を聞くと、その担当者も街もレベル上がりますからね。そういった勉強にもなっていくしますので、よろしく願いします。

[O委員]

海陽町のOです。よろしく願いします。私は2点ございます。まず、コロナ禍で、DX事業が凄く進んだというのが、皆さん実感してると思うんですが、実は、スポーツ業界でも同じで、私は総合型クラブで、運動指導させていただいてるんですけども、コロナをきっかけに、オンライン配信での教室というのをやらせていただくようになりました。周りでも、テクとくのアプリを使っての健康管理とか、お家でユーチューブ見ながらエクササイズなど、本当にDX化が進んでいるなと思っております。今年度も徳島県のスポーツDX事業で、オンライン配信をやらせていただくにあたって、感じたのがDXを進めてくださいという一方で、地域の公民館であったり、役場内の会場など、まだまだネット

環境が整っていなかったりする。そして、ネット環境が整っていても、セキュリティの問題でオンラインが使いえなかったりという制限があります。これからは、オンラインを使用する状況がもっと必要になってくると思いますので、特に避難所にもなりえるところだと思いますので、そういったところは、Aさんがおっしゃった冷暖房も必要なんですけれども、ネット環境も合わせてこれからは必要になってくるんじゃないかなと思います。

もう1点は、素案の12ページに、生涯健康で安心して暮らせる社会の実現ってということで、私は普段は、主にそういう仕事をさせていただいています。ですので、そういうことをよく普段から考えたりしているんですけれども、この健康寿命延伸に向けた健康づくりについて、海陽町では特定検診の受診率が3年連続、県内で1位です。そして、全国的にも、実は町単位で7位なんです。で、すごく、システムが充実していて、手厚く、ひとりひとりの町民の把握ができています。私がどうして詳しいのかというと、検診をした時に、説明会なんかで、運動に関してのお話をさせていただいたり、数値が高いなあっていう人にはそのまま運動メニュー、運動習慣とか、そういった見直しをしたりっていうことで、関わらせていただいています。年々、医療費が少しずつ減少しているっていうお話も聞いているので、とてもいいシステムだなと思います。そのシステムは、時間の関係で詳しく説明できないですが、自治体単位でこういうシステムって全然違ったりしています。来年度から、実は県をまたいで東洋町からもお話いただいて、介護予防のそういう委託事業をやらせていただいたりということです。もっとこういう計画を作成するときに、県内とか、全国でもいいんですけど、いいシステムを広く共有して、今後の取組を考える時に役立てていければいいかなと思いますので、ここで述べさせていただきました。以上です。

#### [P委員]

はい、よろしく申し上げます。NPO法人「あったかいよう」の事務局で移住担当しておりますPと申します。私から、まず、プラン10の次世代への自然環境の継承という点について、お話ししたいと思います。「あったかいよう」では、子供達に環境問題とか、海ごみの問題を知ってもらおうという活動を昨年度ぐらいから一生懸命頑張っています。ここに記載のあります「みなみから届ける環づくり会議」さんとも協働させていただいて、海部高校のボランティア部と一緒に、海ごみリーダーの講座をやらせてもらっています。ここに記載のある問題の啓発とか、保全活動を今やられてるんですけれども、もう少し踏み込んで、プラスチックを出さないとか、例えば、リユースをもっと進めていくっていう踏み込んだ政策をとって見たらどうかなっていうのが一点です。例えば、香川県でしたら、マイボトルを持って、給水スポットを色々なところに、例えばお店だったり、公共施設に設けて、ウォーターサーバーを置いて、プラスチックゴミを無くしているんですね。ペットボトルを買わない運動をかなり進めています。そういうのを徳島県でもどんどん進めていったらどうかなっていうのが、一つ御提案です。

あと、リユースですね。「あったかいよう」は、移住促進活動の一環として片付もやってるんですが、色々なまだ使えるものが沢山出てくるんです。それを捨ててしまうっていうのは、忍びないんですけれども、現状は、ほとんど捨てている。なんでかということ、リサイクル、リユースするものを置くことができる場所がないんですね。リサイクルショップもないですし、公共でそういう使えるものが再利用できるような場所もない。そういう場所がもっと増えれば、いいなっていう思いです。「あったかいよう」の事務局が旧海部中学校の技術室を借りているんですけれども、海部中学校が今使われていない状態なので、そこをできたら貸してほしいと、町の方にはずっと言ってるんですけれども、そこで、リユースとかリサイクルの場所、誰でも来れて、使えるみたいな場所ができたらいいなと思

っています。廃校利用は、国としてはどんどん進めてくださいという考え方だと思うんですけども、町単位では、実際のところ、全然使わせてくれないみたいなどころがあります。どこの自治体も同じかなと思うんですけども、耐震がどうか言って使わせてくれない。それをもう少し県の方から後押ししていただければというのがあります。

もう一つ、プラン13の移住定住の話です。例えば、先ほどNさんからもお話があったと思うんですけど、住む家がまずない。移住してきたいという方はかなりいらっしゃるんですが、家がないというのが一番大きな問題です。その問題に対して、空き家バンクであったりとか、空き家改修補助金であったりっていうのはもう既にあるんですけども、それ以上の何か施策が必要であると思います。例えば、富士通は、大きな企業ですけども、コロナの初期の段階で、完全リモートワークというのを決めて、ずっとそれでやられてると思います。富士通のワーケーションパートナーシップというのがあって、富士通の社員は、どこでも仕事ができるので、例えば、北海道、長崎、高知、東京、福岡とか、色々な県とパートナーシップの締結を結んで、そこでお仕事しながら、その問題解決に携わっています。そういうのも徳島県は是非手を挙げていただけたらいいなっていうのが、前から思っていたので、今日言わせていただきました。以上です。

[局長]

ありがとうございます。頂きました意見の中に何点か御質問等もございましたが、申し訳ございません。司会の不手際で、この後、管内の市町の皆様方からの御意見をいただきたいと思っておりますので、時間の都合上、いただきました御質問に対する回答につきましては、後日文書で回答をさせていただきますので、御了承ください。続きまして、管内の各首長様から御発言をお願いしたいと思います。こちら、まず会場の皆様からお伺いし、続いて、WEBで御参加の皆様からお伺いできればと思います、では、表原阿南市長様から順にお願いします。

[表原 阿南市長]

ありがとうございます。時間の関係もございしますので、私からは個別の話ではなく、今回の見直しに関する全体についてお話をさせていただけたらと思います。今回、めまぐるしい変化に対して対応するために、戦略のあり方を見直したということは、非常に前向きに受け止めております。結果として、プランの数に関しまして、24のプランから15プランになったということは、大変好ましいことだと思います。阿南市においても、あれもこれもに取り組むのではなくて、一転突破でもいいので、結果として実感できるものに対して限られた資源を戦略的に注ぎ込むという考え方は、非常に大事だと思っています。この広域で取り組むからこそ発揮できる相乗効果がありますが、それは一体何なのかを明確にしていく必要があると思います。

今日お話を聞いた中で、G委員の話は、凄く大事だと思っています。私も福岡で6年間、ずっと飲食店をやってたんですね。その時と徳島に帰って来てのギャップ、今、これだけリモートワーク、二拠点生活などがスタンダードになる中で、自助の中ではどうしても埋められない格差に対して、公的資源でどうサポートしていくのかということ、非常に大事です。要はマーケティングの視点が非常に大切になります。ここがやはり行政の弱いところだと思っていて、それを埋め合わせるのが、官民の連携だと思います。誰をターゲットにして、何を素材にして、どのような手法で、どれだけのスピード感を持ってやっていくのかということが非常に大事ですので、この計画を具現化していく中で、マーケティングの視点を大事にしていきたいです。

あと、L委員の話にも共感を覚えました。町が町として生き残っていくために、人口などの分かり

やすい指標だけではなく、これをやってるから、皆で力を合わせてやっていこうぜといったところのシビックプライドと言われますけれども、そういった機運を高めていくために、独自の指標を設ける。これは、非常に面白いと思ってまして、是非取り入れていただきたい。例えば、E委員の花火があって、ジビエがあって、世界に誇れるようなキラリと光るような素材を広域で組み合わせて、これをギネス記録のようなもの、もしくは関西万博の時に100万円払ってでも食べたいなって思えるデカ盛りの商品開発のようなプロジェクトなど、何か一点突破でもいいんですけど、これをやることによって、本当に徳島に来てよかったなって思えるような何かを目標として定量化させていく、そういった取組にも是非、御協力いただきたいなと思います。よろしくをお願いします。

[磯野 美波町副町長]

美波町長代理の磯野と申します。よろしくお願いいたします。私からは美波町の委員の皆様から意見がありましたことについて、美波町の現状について御説明させていただけたらと思います。

まず、N委員からの移住に関する御意見ですが、美波町におきましては、移住施策、サテライトオフィス誘致は、非常に重要な施策の一つとなっております。N委員におかれましては以前より、移住相談フェアをはじめ、移住についての御相談に御協力いただいております。誠にありがとうございます。コロナ禍によりまして、移住のあり方も多様性ができてきていると思いますので、今後とも御協力お願いいたします。

次に、F委員からの空き家対策に関する御意見についてですけれども、美波町におきましても空き家の除却につきましては、経済面、相続人の特定など様々な課題がございますけれども、実態調査などを実施いたしまして、今年度中には、第二次の美波町空き家対策計画を作成し、効果的な空き家対策に取り組むこととしております。大地震における避難路の確保につきましては、住民の生命や身体の安全を守るために重要な取組であると考えております。大地震発生時の取り組むべき課題については、今後とも、自主防災会の皆様方の御意見も頂きながら進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、L委員からの新たなチャレンジについての御意見についてでございます。美波町におきましても、人口減少が進む中で、自治体職員の積極的な地域活動への参加が求められていることから、報酬を得て従事する場合の基準として、令和2年度に、地域貢献活動を行う美波町職員の営利企業等の従事制限の許可基準を設けて運用をしているところでございます。また、チャレンジする仕組みとして、小規模事業企業支援補助金やチャレンジ応援事業補助金などの制度を作っているところでございます。今後も持続可能な地域づくりのために、御協力いただければと思っております。

最後になりましたけれども、M委員からのデジタル技術の利用促進については、様々な分野での活用ができるということで、美波町としては、サテライトオフィス企業との連携をはじめとする事業を行っておりまして、今後もそういった方々との連携を含めて取り組みたいと思っております。以上、簡単ですが、状況説明とさせていただきます。

[坂口 那賀町長]

G委員さんからは移住問題等の御意見を頂きました。那賀町もこれまで移住定住者の確保は、人口減少問題対策と合わせて、色々と対策を講じてきましたが、これまでも移住者の方から色々と御意見を頂いた中では、やはり、住む場所が欲しいというのが非常に多いんです。空き家もあるんですが、すぐに空き家も活用できない。ということで、町としても、色々と試験的に住んでいただく住宅とか、今、業者さんに建物を建てていただいて、そして、その分について町が支援するという対応策も行っ

ております。現在、10棟余り、家族、また、単身者が活用できるような住宅を整備していただいております。令和5年度で、今、その隣にエリアが違うところなんです、約60戸ぐらいの住宅整備をできるよう宅地造成を行っております。そういったことに力点を置いて、移住定住者を増やして参りたいと思っております。

それから、H委員からは林業関係の御意見を頂いております。町としても皆伐を全て進めているわけではないんですが、やはり今、木材価格の低迷に合わせて、町外の森林所有者の方が、この際に皆伐して、もう山から縁を切りたいという方も多いです。また、集落の近くでの皆伐をされてる方については、集落でそこを将来的に、広葉樹林とか、里山風に作っていきたい方もおいでます。そういったことで、関係者の方と色々お話をさせていただいているところです。そして、林業関係には、これまでも知事さんに色々御尽力賜りましたが、那賀町としても、やはり林業従事者の確保というのが課題になっております。これにつきましては、幼い頃から森林に親しんでいただくということで、町として進めておりました、山のおもちゃ美術館が3月11日にオープンします。そこで幼い頃から山に親しんでいただきたいと思いますと思っております、そして、将来的に、従事者としても活躍していただけないかなと思っております。また、建築用材以外の木材についても活用していこうということで、3月末にはチップ工場も運営を開始する予定でございます。那賀町にとって、林業は重要な産業でございますし、脱炭素社会をいわれている中での森林の果たす役割は重要であると思っておりますので、今後とも宜しくお願いを申し上げます。

また、J委員のお話しされました公共交通関係について、これは、町として、これまでも徳島バス南部さんの御協力を得ながら、色々対応策を考えてきております。ボランティアタクシーさんの活用も含めて進めてきましたが、次から次とそれなりに課題が出ております。これらの対応をどうするか、今後における支援策を検討していかなければならないと感じているところでございます。また、色々御意見を頂ければと思います。今日はありがとうございました。

[枅富 牟岐町長]

皆さんこんにちは、牟岐町の枅富でございます。本日はよろしくお願いたします。

先般、2月24日の金曜日、飯泉知事さんにおかれましては、県議会開会中でもあり、公務御多忙中にもかかわらず、牟岐町と牟岐町議会議員8名全員出席のもと、要望活動の時間を賜りまして、誠に有難うございました。心から感謝を申し上げます次第でございます。帰りのバスの中では、話が盛り上がりまして、本当に良い雰囲気です。帰路につくことができました。重ね重ね、どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございました。

最初の方でB委員さんからお話がありました、JR牟岐線でございますが、海部郡婦人連合会と地元住民団体、地域医療を守る会の会員の皆様には、わずか1月程でJR牟岐線の阿南・阿波海南間の存続を求める署名14,719筆を集めていただき、要望書をJR四国徳島企画部を訪れて頂き、手渡しで提出されましたこと、地域医療を守る会副会長のB委員におかれましては本当にお疲れ様でした。また、関係団体の皆様には心からお礼を申し上げます。

私共も沿線自治体の海部郡3町が阿南市の表原市長さんのリーダーシップによりまして、昨年11月5日に阿南市で第1回のJR四国牟岐線を考える首長トップセミナーを開催し、2月19日には、第2回目の勉強会を日和佐公民館で開催したところでございます。今後も持ち回りで開催することとなっております。また、その際には徳島県さんにお世話になっておりますので、今後とも引き続き御指導と御協力をお願いいたします。

もう一点、徳島県立海部病院との連携推進についてでございますが、地域医療の充実を図るため、

医師の人材確保が不可欠でありますので、地域医療を守る会を支援しながら、医師流出を抑える政策を継続し、県立海部病院と連携を推進して行きたいと考えております。今後も引き続き地域包括ケアシステムの構築に向け、何卒、御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、私も誰一人取り残さない、光り輝く徳島を強く望んでおりますので、御尽力いただきますよう、よろしくお願いいたします。以上でございます。

[局長]

それでは、最後に飯泉知事からお願いいたします。

[飯泉知事]

まずは、委員の皆様方、それぞれの市町の首長様、関係の皆様方につきましては、積極的に地域課題に対して御提言、御意見を頂き、本当にありがとうございました。詳細な点については、先ほど坂東局長からも申し上げたように、文書で御回答させていただきたいと思っております。

私の方からは、全体に関わることについて何点か申し上げたいと思っております。

まず、多くの皆様方が言われた、このコロナ禍によって、確かにマイナスが多かったんですが、大きなプラスのものとして、DXが各方面で進んだということを複数の皆様方が言われたところです。これからコロナが5月8日から5類になったとしても、DXをどんどん進めていく。そういう意味では、徳島は、全国の中で光ブロードバンド環境が整備されており、東京、大阪以上に通信速度が速く、しかも安いという特徴があります。これは地上デジタル放送が徳島だけ、10チャンネルが3チャンネルに減るという大変なデメリットがあった。これをケーブルテレビで、ちょうど私が郵政省で開発した、CATVインターネットを活用して、これを見ることができる。しかも、本来であれば、同軸ケーブルで繋ぐところ、光ファイバーになったことで、今県内では、ほとんどの御家庭が光ファイバーで繋がれているんですね。デジタル田園都市国家構想では、令和9年度までに各都道府県の光ブロードバンド整備率を99.99パーセントにするという大きな目標を立てています。スタートした年は、令和4年度ですが、実は徳島県は、その前の年の令和3年度中にこれを達成している唯一の県です。今後はこれをどう使っていくのかが大事になってくる。

しかも、その通信媒体と使い道がどんどん変わってくる。今、ようやく5Gが商用化をされ、そして超低遅延、多数同時接続、超高速となっていますが、今、世界の流れというのは、その先のBeyond 5G、つまり6Gということで、日本においては、国是国策として、2025年未来社会の実験場の別名を持つ大阪関西万博で、6Gを世界に発信をしていく。今、徳島がそのモデルを全て行っている、例えば遠隔医療、さらには、アイ・コンストラクション、スマート農林水産業と、少なくともこの3分野で6Gにチャレンジする。

そして電波からやはり電力消費を考えると、これからは光の世界、テラヘルツ。これを開発しているのが、徳島大学と徳島県ということになっておりますので、是非皆様方におかれましては、大阪関西万博、いよいよ2年と迫って参りましたので、ここに向けて県においても様々な施策を万博仕様に切り替えて、是非皆様はこうした点について、未来志向でこれから更に臨んでいただきたいと思っております。

こうした中には、働き方改革、人手不足についても、その解が見出せるということで、県としましては、各企業、特に中小企業、小規模事業者の皆様方が、このDXにしっかりと対応できるように先立ち資金、先ほどG委員からも、東京行くのに100万円かかりますよという話があったところです。ですので、そうした様々な技術支援といった点で、いわゆる資金の10パーセントをキャッシュでお配りするという融資連動型の取組を御用意をさせていただいているところであります。ですので、様

々な点で御質問等ありましたら、商工労働観光部、南部総合県民局の方にお気楽にお聞きいただければと思います。しっかりとバックアップをさせて頂ければと思います。

また、B委員の方からは、日本中の大きな課題となった地方ローカル線の維持の話を伺いました。実は、国鉄民営分割化、私も自治省で担当しましたが、絶対に独立採算プラスになるのは無理と言われた3子会社は、JR北海道、JR九州、JR四国だったんですね。そして、国が財政税制両方で支援をした。しかし、JR九州については、新幹線が通ったことによって福岡の地価が一気に上がって、ホテル事業、マンション事業で収益を上げて、この三島特例から抜けてしまったんですね。残ったのは、北海道と四国。北海道はどうなったのか、新幹線に全ての力を合わせることで、ローカル線は半分廃止になり、DMVの技術も我々の方に譲るということになったんですね。では、JR四国はどうなっていくのか、実はJR四国の路線の中で2番目に採算が悪いのが、実は牟岐線なんですね。知事就任以来、国鉄の民営分割もやったところでありますので、絶対にJRに廃止、廃線この2文字を言わせてはいけない。これ言ってしまうと元に戻ることは無理なんですね。ということで、まずは四国初のパターンダイヤ、これによって接続を良くするために、徳島バスに全ての路線で南小松島駅を經由してもらいました。利便性が高まれば、当然のことながら利用者が増える。これによって阿南駅までの本数が増えました。しかし、問題は阿南から美波、こちらの本数が激減しました。困ったのは海部高校の生徒、あるいは、阿南の高校に通う海部郡の生徒さんということになりました。ただ、ここに一つのヒント、並行して走るもう一つの公共交通機関、高速バスですね。ということで、徳島バスの皆様方をお願いをして、是非甲浦から阿南までの間、普通は乗るだけなんですけど、乗り降り自由にしてもらいたい。いいですよ、お客さんがいればということで、生徒さん方はこれでオッケーなんですね。阿南駅には、高速バスの時刻表がちゃんとある。しかし、ある時、海部高校の生徒さんがお母さんに知事さんに言っというと言われたと、高すぎると。つまり定期券を持っていて、定期券では高速バスに乗れないんですね。また、別途、高速バス代を払わなきゃならない。できれば定期1枚で高速バス乗り降り自由にしてもらいたい。そこで両社長さんをお願いをして、実は独占禁止法上、これはカルテルになるんですね。できないんですが、例外が法律で1つだけあります。つまり、両方が共倒れする場合にはできるということで、独禁法の特例、日本初適用となったのが共同経営。ということで、JR定期1枚で高速バス乗り降り自由、初乗り料金もなしということになりました。

そして、世界初DMV、阿波海南駅までJRあるいは高速バス、もちろんマイカー来れる方もおられますが、これによって牟岐線をなんとか存続させようとしています。

しかし、これだけでは足りないです。もっと、定期客を増やさなければいけない。これが実は文化ホールの新駅整備ですね。もちろん、ホールと接続することによって、列車で来る四国全域の皆様、あるいは県内の高齢者の皆様方にとっての利便性のためということはあるんですが、これはイベントの時だけなんですね。それよりも、真向かいに徳島市役所、反対側に中央署や裁判所、そして本町交差点の向こうには、大きな需要があるんですね、城東高校です。今、城東高校の生徒さんは、雨の日傘をさして自転車で通学します。192号線のアンダーパスを猛スピードで走り、高齢者の皆さん方と接触しそうなことがあるんですね。ということで、新駅ができることによって、列車通学することができる。こうすることによって定期客を増やし、これによって牟岐線の維持につなげていく。もちろん、2050年カーボンニュートラルということで、列車はエコ、乗って、公共交通を維持しましょうということもある。これが上手くいくのであれば、今度は徳島市内に多くの駅をつくることによって、例えば、高校生が列車通学が可能になる。例えば、北矢三というところに駅をつくれば、城北高校、科学技術高校の皆さん方が列車で来ることができるんですね。ということで、新たな考えの大きな試金石となりますので、是非南部エリアの皆様方につきましては、よくこの駅のことをお考



えを頂き、そんな近いところにつくっても無駄という御意見も徳島市内で言われるんですね。是非牟岐線の存続、あるいは多くの方の利便性、そしてエコである。こうした点を、もっと広げていただく、これが重要ではないかと考えております。

また、C委員の方から高速道路の話がありました。こちらについては、立江櫛淵インターチェンジと阿南インターチェンジですね。これが実はもっと早く完成時期が示される場所だったんですが、実は櫛淵のところが湿地帯ですから、軟弱地盤ということで、国土交通省が慎重になっておりまして、その間に、羽ノ浦トンネルは貫通しております。ということで、もう間もなく完成時期が示されて、示されれば、国は3年以内に開通させなければならない。我々は、そういう意味でこの開通時期を示してもらおうとしているところでもありますので、もうしばらくお待ちいただくとともに、阿南安芸自動車については、特に桑野、さらに福井では、全てにおいて大規模構造物に着工となりました。特に福井道路では、新野トンネルに着手することとなりましたので、是非期待をもってお待ちいただければと思います。

また、H委員からは生物多様性と林業のお話、特に皆伐の話がございました。確かに今、皆伐がどんどん進んでおり、木材需要にできていこうということなのですが、問題はその後、植林が追いついていないということがありました。しかし、こうしたところを、逆に針葉樹と広葉樹の混交林にすることによって、山にドングリを戻すことになり、鳥獣害対策になる。あるいは、秋に紅葉する山をつくっていく。こうした点も、今後の未来志向ということにもなり得ますので、那賀町の林家の皆様方も御相談をさせていただいて、未来志向で臨むことができればと思います。そして何よりも二酸化炭素吸収源対策、2050年のカーボンニュートラル、日本にとって一番大きな手法となりますので、この点については御協力をよろしくお願い申し上げたいと思います。

そして、I委員から阿波人形浄瑠璃のお話がございました。2度の国民文化祭、4大モチーフの1つ阿波人形浄瑠璃ということで、お話があったように、確かに分かりづらい。というのは、全てが文語調なんですね。ということで、最初の国民文化祭の時に瀬戸内寂聴さんをお願いをして、2本の新作を作ってもらいました。1つ私が申し上げたのは口語調で作って欲しい。できあがったのがモラエス恋遍路です。そして、もう一つについて、源平合戦となると香川の屋島が言われます。しかし、義経が最初に上陸したのは徳島県なんです。勝浦、今の小松島市ということで、義経街道娘恋鏡、こちらを書き下ろしていただきました。コロナ前でありましたが、東本願寺さんが文化財団としてパリのユネスコ本部で、日本の例えば歌舞伎、能、狂言、そして徳島から阿波踊りを持って行ってもらったんですね。先般は、阿波人形浄瑠璃も持って行ってもらいました。その結果、歴史上最大の入場者となりました。つまり、海外の皆さん方からみると阿波人形浄瑠璃は東洋の一大芸術なんですね。というのは、マリオネットが芸術ですから、特に等身大3人使いである阿波人形浄瑠璃は、ヨーロッパの皆さん方にとってみると東洋の神秘あり、史上最高の意義となったというところでもあります。しっかりと、子供達に、あるいは県の職員もというお話を頂きましたので、しっかりとそういう点についても対応させていただきたいと思います。あとの点につきましては、しっかりとまた御回答させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

[局長]

皆様本日は長時間にわたり、貴重な御意見を賜りまして本当にありがとうございました。以上もちまして、令和4年度第2回徳島県南部地域政策総合会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。